

15 ゴムボート体験

☆活動の概要

6～8名のグループで協力してゴムボートを漕ぐ活動です。左右のバランスをとり、大きなかけ声とともに心を一つにすれば、驚くようなスピードで進みます。

活動は、ユニット（活動グループ）ごとに行います。

☆対象学年

原則として小学校5年生以上（6名以上）。ただし、保護者又は責任の持てる引率者と組んで活動する場合は、この限りではありません。詳細については、職員にご確認ください。

☆活動可能人数

1ユニットの最大ゴムボート数は5艇（8名×5艇＝40名）

同時に活動できるのは最大3ユニット（40名×3ユニット＝120名）

※ 120名を超える学校団体等は、活動時間を区切って交代で体験することも可能です。

☆ねらいとして考えられるもの

- (1) 海に親しみ、自然の偉大さや海の素晴らしさを体感する。
- (2) 仲間と協力することの大切さを学ぶ。

☆活動場所と活動時間

- (1) 場所：新城海の家 ※自然の家本館⇔新城海の家（約4km 徒歩 下り60分 登り70分）
片道は、自然の家バス（マイクロ・大型）をご利用できます。
- (2) 時間：午前の部10時30分～12時30分、午後の部13時30分～15時30分

☆季節

5月1日から10月31日まで

※ 当自然の家の教育事業等により実施できない時期（7月下旬～8月上旬）があります。

☆準備物

- (1) 参加者 水着 Tシャツ 帽子 濡れてもよい靴またはマリンシューズ（スポーツサンダルは不可）
日焼け止め（必要に応じて）等
※ 長袖・長ズボンが望ましい。（けが、クラゲ対策）
- (2) 引率者 救急セット 帽子 活動名簿（別途様式有り）
- (3) 貸し出すもの 活動に関する道具一式 無線機 双眼鏡 ライフジャケット

☆指導体制

- (1) 陸上監視員（1名）…陸上（防波堤の先端付近）から、ユニットを監視する。落水者等がいた場合、無線機で指導補助職員（監視艇）に連絡する。
 - (2) 緊急救助員（1名）…監視艇に乗船し、緊急時の救助補助を行う。
- ※ 1ユニットに対して各団体から、上記にある2名の協力者が必要となります。
（例）3ユニット同時に活動する場合は、6名の引率協力者が必要となります。

☆指導上の留意点

- (1) 体験にあたっては、利用3週間前までに、必ずお申し込みください。（関係機関に活動を届ける必要があります。）
- (2) 海上は天候が変わりやすいため、風力・風向・波浪に十分注意する必要があります。実施にあたっては、「海浜活動安全対策マニュアルの実施基準」に従って実施します。詳しくは自然の家職員にご確認ください。
- (3) 引率者全員がねらいとそれに応じた運営をできるように、打ち合わせをしっかりとっておきましょう。担当者だけが分かっても効果はありません。
- (4) 導入指導の前に、参加者の人数や体調、使用するゴムボートの番号を確認してください。事前

- に提出された名簿に変更等があれば、指導職員にお知らせください。
- (5) 導入指導時に、補助をお願いします。(ライフジャケット着用と確認の時)
- (6) 事前指導で次のことを指導しておいてください。(当日も職員が再度指導します。)
- ア 活動中は指定された活動エリア内で活動する。
 - イ 防波堤や消波ブロックは危険なので近寄らない。(波の影響で大変危険)
 - ウ 風向を確認して、岸から離れないように漕ぐ。
 - エ ふざけて他のゴムボートにぶついたり、わざと海に落ちたりしない。
 - オ 救助が必要な時は、オール又は片手を大きく頭上で左右に振る。
 - カ ホイッスル等により活動中止の合図があった時は速やかに従う。
 - キ 自然の家職員や団体引率者から指示されたことは厳守する。
- (7) 体調不良者への対応
- ア 熱中症…(ア) 日陰の涼しい場所で横にし、衣類をゆるめて楽にする。
 - (イ) 顔面が蒼白で脈が弱いときは下半身を高くする。
 - (ウ) 水分を補給し、体を冷やす。
 - (エ) 症状が重い場合は、早急に医療機関へ搬送する。
 - イ 低体温症…(ア) 症状が軽い(体温が33℃以上)場合は、体の水分をよく拭き取り、毛布で暖めたり、40～42℃くらいの温水に入浴させたりして復温を図る。
 - (イ) 症状が重い場合(体温が32℃以下)場合は、必要に応じて心肺蘇生法を行い、早急に医療機関へ搬送する。

☆手順例

- (1) ねらい 海に親しみ自然の偉大さや海の素晴らしさを体感するとともに、仲間と協力することの大切さを学ぶ。
- (2) グループ構成 8人組×5艇
- (3) 展開 <事前> 参加者の人数及び健康状態を確認する。活動に応じた服装に着替える。トイレ・水分補給を済ませておく。
- ① ライフジャケットを着用させる。
 - ② 活動を説明する。
 - ③ 準備体操をさせる。
 - ④ 活動用具の説明と諸注意をする。
 - ⑤ アイスブレイキング(ライフジャケットのみで浮く体験)をする。
 - ⑥ ゴムボートの操船説明及び練習をさせる。
 - ⑦ ゴムボートを出艇させる。
 - ⑧ ゴムボートを着艇させる。
 - ⑨ 人数を確認する。
 - ⑩ 後片付け(塩抜き)をさせる。
- (4) ふり返り・まとめ
- ① ふり返り後、「日常生活でグループ活動が必要な場面とその取り組み方」など、ねらいに応じたテーマに基づき活動との対比で考えさせる。
 - ② 指導者は参加者の発表を受け、今回の「気づき」を、次の活動や日常生活に活かすことを促すなど、簡単にコメントを行う。評価的なコメントにならないように注意する。



16 いかだ体験

☆活動の概要

8～10名のグループで協力していかだを組み、海上で漕ぐ活動です。左右のバランスをとり、大きなかけ声で元気よく活動します。

活動は、ユニット（活動グループ）ごとに行います。

☆対象学年

原則として小学校5年生以上（6名以上）。ただし、保護者又は責任の持てる引率者と組んで活動する場合は、この限りではありません。詳細については、職員にご確認ください。

☆活動可能人数

1ユニットの最大いかだ数は5枚（10名×5枚＝50名）

同時に活動できるのは最大3ユニット（50名×3ユニット＝150名）

☆ねらいとして考えられるもの

- (1) 海に親しみ、自然の偉大さや海の素晴らしさを体感する。
- (2) 仲間と協力することの大切さを学ぶ。

☆活動場所と活動時間

(1) 場所：新城海の家 ※自然の家本館⇄新城海の家（約4km 徒歩 下り60分 登り70分）

片道は、自然の家バス（マイクロ・大型）をご利用できます。

(2) 時間：午前の部10時30分～12時30分、午後の部13時30分～15時30分

☆季節

5月1日から10月31日まで

※ 当自然の家の教育事業等により実施できない時期（7月下旬～8月上旬）があります。

☆準備物

(1) 参加者 水着 Tシャツ 帽子 濡れてもよい靴またはマリンシューズ（スポーツサンダルは不可）
日焼け止め（必要に応じて）等

※ 長袖・長ズボンが望ましい。（けが、クラゲ対策）

(2) 引率者 救急セット 帽子 活動名簿（別途様式有り）

(3) 貸し出すもの 活動に関する道具一式 無線機 双眼鏡 ライフジャケット

☆指導体制

(1) 陸上監視員（1名）…陸上（防波堤の先端付近）から、ユニットを監視する。落水者等がいた場合、無線機で指導補助職員（監視艇）に連絡する。

(2) 緊急救助員（1名）…監視艇に乗船し、緊急時の救助補助を行う。

※ 1ユニットに対して各団体から、上記にある2名の協力者が必要となります。

（例）3ユニット同時に活動する場合は、6名の引率協力者が必要となります。

☆指導上の留意点

(1) 体験にあたっては、利用3週間前までに、必ずお申し込みください。（関係機関に活動を届ける必要があります。）

(2) 海上は天候が変わりやすいため、風力・風向・波浪に十分注意する必要があります。実施にあたっては、「海浜活動安全対策マニュアルの実施基準」に従って実施します。詳しくは自然の家職員にご確認ください。

(3) 引率者全員がねらいとそれに応じた運営をできるように打ち合わせをしっかりとっておきましょう

- う。担当者だけが分かっても効果はありません。
- (4) 導入指導の前に、参加者の人数や体調、使用するいかだの番号を確認してください。事前に提出された名簿に変更等があれば、指導職員にお知らせください。
- (5) 導入指導時に、補助をお願いします。(ライフジャケット着用と確認時)
- (6) 事前指導で次のことを指導しておいてください。(当日も職員が再度指導します。)
- ア 活動中は指定された活動エリア内で活動する。
 - イ 防波堤や消波ブロックは危険なので近寄らない。(波の影響で大変危険)
 - ウ 風向を確認して、岸から離れないように漕ぐ。
 - エ ふざけて他のいかだにぶついたり、わざと海に落ちたりしない。
 - オ 救助が必要な時は、オール又は片手を大きく頭上で左右に振る。
 - カ ホイッスル等により活動中止の合図があった時は速やかに従う。
 - キ 自然の家職員や団体引率者から指示されたことは厳守する。
- (7) 体調不良者への対応
- ア 熱中症…(ア) 日陰の涼しい場所で横にし、衣類をゆるめて楽にする。
 - (イ) 顔面が蒼白で脈が弱いときは下半身を高くする。
 - (ウ) 水分を補給し、体を冷やす。
 - (エ) 症状が重い場合は、早急に医療機関へ搬送する。
 - イ 低体温症…(ア) 症状が軽い(体温が33℃以上)場合は、体の水分をよく拭き取り、毛布で暖めたり、40~42℃くらいの温水に入浴させたりして復温を図る。
 - (イ) 症状が重い場合(体温が32℃以下)場合は、必要に応じて心肺蘇生法を行い、早急に医療機関へ搬送する。

☆手順例

- (1) ねらい 海に親しみ自然の偉大さや海の素晴らしさを体感するとともに、仲間と協力することの大切さを学ぶ。
- (2) グループ構成 8人組×5枚
- (3) 展開 <事前> 参加者の人数及び健康状態を確認する。活動に応じた服装に着替える。トイレ・水分補給を済ませておく。
- ① ライフジャケットの着用させる。
 - ② 活動を説明する。
 - ③ 準備体操させる。
 - ④ 活動用具の説明と諸注意をする。
 - ⑤ いかだを組み立てる。
 - ⑥ アイスブレイキング(ライフジャケットのみで浮く体験)をする。
 - ⑦ いかだを出艇させる。
 - ⑧ いかだを着艇させる。
 - ⑨ 人数を確認する。
 - ⑩ 後片付け(塩抜き)をさせる。
- (4) ふり返り・まとめ
- ① ふり返り後、「日常生活でグループ活動が必要な場面とその取り組み方」など、ねらいに応じたテーマに基づき活動との対比で考えさせる。
 - ② 指導者は参加者の発表を受け、今回の「気づき」を、次の活動や日常生活に活かすことを促すなど、簡単にコメントを行う。評価的なコメントにならないように注意する。



17 カヌー体験

☆活動の概要

パディ（2～3人組）で協力してカヌーを漕ぐ活動です。お互いに声かけをしてリズムよく漕ぐことがポイントとなります。

活動は、ユニット（活動グループ）ごとに行います。

☆対象学年

原則として小学校5年生以上（6名以上）。ただし、保護者又は責任の持てる引率者と組んで活動する場合は、この限りではありません。詳細については、職員にご確認ください。

☆活動可能人数

1ユニットの最大カヌー数は10艇（2名×10艇＝40名）

同時に活動できるのは最大2ユニット（40名×2ユニット＝80名）

※ 80名を超える学校団体等は、活動時間を区切って交代で体験することも可能です。

☆ねらいとして考えられるもの

- (1) 海に親しみ、自然の偉大さや海の素晴らしさを体感する。
- (2) 仲間と協力することの大切さを学ぶ。

☆活動場所と活動時間

- (1) 場所：新城海の家 ※自然の家本館⇔新城海の家（約4km 徒歩 下り60分 登り70分）
片道は、自然の家バス（マイクロ・大型）をご利用できます。
- (2) 時間：午前の部10時30分～12時30分、午後の部13時30分～15時30分

☆季節

5月1日から10月31日まで

※ 当自然の家の教育事業等により実施できない時期（7月下旬～8月上旬）があります。

☆準備物

- (1) 参加者 水着 Tシャツ 帽子 濡れてもよい靴またはマリンシューズ（スポーツサンダルは不可）
日焼け止め（必要に応じて）等
※ 長袖・長ズボンが望ましい。（けが、クラゲ対策）

- (2) 引率者 救急セット 帽子 活動名簿（別途様式有り）

- (3) 貸し出すもの 活動に関する道具一式 無線機 双眼鏡 ライフジャケット

☆指導体制

- (1) 陸上監視員（1名）…陸上（防波堤の先端付近）から、ユニットを監視する。落水者等がいた場合、無線機で指導補助職員（監視艇）に連絡する。

- (2) 緊急救助員（1名）…監視艇に乗船し、緊急時の救助補助を行う。

※ 1ユニットに対して各団体から、上記にある2名の協力者が必要となります。

（例）2ユニット同時に活動する場合は、4名の引率協力者が必要となります。

☆指導上の留意点

- (1) 体験にあたっては、利用3週間前までに、必ずお申し込みください。（関係機関に活動を届ける必要があります。）

- (2) 海上は天候が変わりやすいため、風力・風向・波浪に十分注意する必要があります。実施にあたっては、「海浜活動安全対策マニュアルの実施基準」に従って実施します。詳しくは自然の家職員にご確認ください。

- (3) 引率者全員がねらいとそれに応じた運営をできるように打ち合わせをしっかりとっておきましょう。担当者だけが分かっても効果はありません。

- (4) 導入指導の前に、参加者の人数や体調、使用するカヌーの番号を確認してください。事前に提出された名簿に変更等があれば、指導職員にお知らせください。
- (5) 導入指導時に、補助をお願いします。(ライフジャケット着用と確認時)
- (5) 事前指導で次のことを指導しておいてください。(当日も職員が再度指導します。)
- ア 活動中は指定された活動エリア内で活動する。
 - イ 防波堤や消波ブロックは危険なので近寄らない。(波の影響で大変危険)
 - ウ 風向を確認して、岸から離れないように漕ぐ。
 - エ ふざけて他のカヌーにぶついたり、わざと海に落ちたりしない。
 - オ 救助が必要な時は、オール又は片手を大きく頭上で左右に振る。
 - カ ホイッスル等により活動中止の合図があった時は速やかに従う。
 - キ 自然の家職員や団体引率者から指示されたことは厳守する。
- (7) 体調不良者への対応
- ア 熱中症…(ア) 日陰の涼しい場所で横にし、衣類をゆるめて楽にする。
 - (イ) 顔面が蒼白で脈が弱いときは下半身を高くする。
 - (ウ) 水分を補給し、体を冷やす。
 - (エ) 症状が重い場合は、早急に医療機関へ搬送する。
 - イ 低体温症…(ア) 症状が軽い(体温が33℃以上)場合は、体の水分をよく拭き取り、毛布で暖めたり、40~42℃くらいの温水に入浴させたりして復温を図る。
 - (イ) 症状が重い場合(体温が32℃以下)場合は、必要に応じて心肺蘇生法を行い、早急に医療機関へ搬送する。

☆手順例

- (1) ねらい 海に親しみ自然の偉大さや海の素晴らしさを体感するとともに、仲間と協力することの大切さを学ぶ。
- (2) グループ構成 2人組×10艇
- (3) 展開 <事前> 参加者の人数及び健康状態を確認する。活動に応じた服装に着替える。トイレ・水分補給を済ませておく。
- ① ライフジャケットの着用させる。
 - ② カヌーの説明をし、道具を海岸に運ばせる。
 - ③ 準備体操させる。
 - ④ カヌーの操船説明及び練習、諸注意をする。
 - ⑤ アイスブレイキング(ライフジャケットのみで浮く体験)をする。
 - ⑥ カヌーを出艇させる。
 - ⑦ カヌーを着艇させる。
 - ⑧ 人数を確認する。
 - ⑨ 後片付け(塩抜き)をさせる。
- (4) ふり返り・まとめ
- ① ふり返り後、「日常生活でグループ活動が必要な場面とその取り組み方」など、ねらいに応じたテーマに基づき活動との対比で考えさせる。
 - ② 指導者は参加者の発表を受け、今回の「気づき」を、次の活動や日常生活に活かすことを促すなど、簡単にコメントを行う。評価的なコメントにならないように注意する。



18 海釣り体験

☆活動の概要

投げ釣りの仕掛けを作り、砂浜からキスやコチなどをねらった釣りを楽しむ活動です。

☆対象学年

原則として小学校3年生以上。

☆ねらいとして考えられるもの

- (1) 海に親しみ、自然の偉大さや海の素晴らしさを体感する。
- (2) 投げ釣りの楽しさを味わいながら、釣りの基本やマナーを身に付ける。
- (3) 海の環境に対する意識を高める。

☆活動場所と活動時間

- (1) 場所：新城海の家 ※自然の家本館⇔新城海の家（約4km 徒歩 下り60分 登り70分）
片道は、自然の家バス（マイクロ・大型）をご利用できます。
- (2) 時間：9時～16時

☆季節

5月1日から10月31日まで

☆準備物

- (1) 参加者 軍手 帽子 運動靴またはマリンシューズ（スポーツサンダルは不適切）
日焼け止め（必要に応じて）等
※ 長袖・長ズボンが望ましい。（日焼け対策）
- (2) 引率者 えさ、釣り針 おもり 軍手 救急セット 帽子
- (3) 貸し出すもの さお（リール、道糸付き） 魚類図鑑 無線機 ライフジャケット

☆指導体制

- (1) 直接指導者（1名）…活動全体の指導する。（導入は自然の家職員が行います）
 - (2) 補助指導者（1名）…活動を監視する。（参加者40名に対して1名）
- ※ 参加者が41名を超える場合は、40名増すごとに1名の補助指導者を配置してください。

☆指導上の留意点

- (1) 海上は天候が変わりやすいため、風力・風向・波浪に十分注意する必要があります。実施にあたっては、「海浜活動安全対策マニュアルの実施基準」に従って実施します。詳しくは自然の家職員にご確認ください。
- (2) 引率者全員がねらいとそれに応じた運営をできるように打ち合わせをしっかりとっておきましょう。担当者だけが分かっても効果はありません。
- (3) 干潮・満潮時刻を事前に確認しておきましょう。
- (4) 事前に指定された活動エリアを確認し、不用意に海には入らないことや滑りやすい場所、落水の可能性のある場所等を参加者に知らせておきましょう。
- (5) 適宜水分補給を心がけてください。
- (6) 雷の接近を感じたらすぐに避難させるとともに、無線機を使って自然の家職員に連絡してください。また、自然の家所有の雷探知機が反応し落雷の危険があるときには、直ちに無線機で引率責任者に連絡します。
- (7) クラゲ・ゴンズイ・エイ・ウニ等の危険な生物について説明し、むやみに捕まえたり直接触れたりしないように指導してください。

- (8) 注意事項ア～オを確実に伝えてください。
- ア 活動中は指定されたエリア内で活動し、絶対に単独行動はしない。
 - イ ふざけたり、危険な行為をしたりして海に落ちないようにする。
 - ウ 竿を振るときは、周囲をよく確認する。
 - エ 用具類はていねいに扱う。
 - オ 自然の家の職員や団体引率者から指示されたことは厳守する。
- (9) 体調不良者への対応
- ア 熱中症…(ア) 日陰の涼しい場所で横にし、衣類をゆるめて楽にする。
 - (イ) 顔面が蒼白で脈が弱いときは下半身を高くする。
 - (ウ) 水分を補給し、体を冷やす。
 - (エ) 症状が重い場合は、早急に医療機関へ搬送する。
 - イ 低体温症…(ア) 症状が軽い(体温が33℃以上)場合は、体の水分をよく拭き取り、毛布で暖めたり、40～42℃くらいの温水に入浴させたりして復温を図る。
 - (イ) 症状が重い場合(体温が32℃以下)場合は、必要に応じて心肺蘇生法を行い、早急に医療機関へ搬送する。

☆手順例

- (1) ねらい 投げ釣りの楽しさを味わいながら釣りの基本やマナーを身に付けるとともに、海環境に対する意識を高める。
- (2) グループ構成 8人程度の班ごと
- (3) 展開 <事前> 参加者の人数及び健康状態を確認する。活動に応じた服装に着替える。トイレ・水分補給を済ませておく。
 - ① ライフジャケットを着用させる。
 - ② 自然の家職員から活動範囲や道具の説明を受ける。
 - ③ 道具を配布する。
 - ④ 釣りの仕掛けを準備する。(おもりや針を付ける)
 - ⑤ 活動場所に移動しえさを付け、周囲を確認してから竿を振る。
 - ⑥ 活動を終わったら人数を確認する。
 - ⑦ 仕掛けからおもりと針を取り外し、持ち帰る。竿等は片付ける。
 - ⑧ 活動場所を清掃する。
- (4) ふり返り・まとめ
 - ① ふり返り後、「自然を相手に活動する際のマナー」「海の問題」など、ねらいに応じたテーマに基づき活動との対比で考えさせる。
 - ② 指導者は参加者の発表を受け、今回の「気づき」を、次の活動や日常生活に活かすことを促すなど、簡単にコメントを行う。評価的なコメントにならないように注意する。



19 海中観察

☆活動の概要

海の生物を箱めがねで観察したり、手で触れたりする活動です。

☆ねらいとして考えられるもの

海の生物や環境に対する興味・関心を高める。

☆活動場所と活動時間

- (1) 場所：新城海の家 ※自然の家本館⇔新城海の家（約4km 徒歩 下り60分 登り70分）
片道は、自然の家バス（マイクロ・大型）をご利用できます。
- (2) 時間：9時～16時

☆季節

5月1日から10月31日まで

☆準備物

- (1) 参加者 水着 着替え 軍手 帽子 日焼け止め等（必要に応じて）
濡れてもよい靴またはマリンシューズ（スポーツサンダルは不適切）
※ 長袖・長ズボンが望ましい。（日焼け対策）
- (2) 引率者 軍手 救急セット 帽子
- (3) 貸し出すもの 魚類図鑑 箱めがね ライフジャケット 無線機 双眼鏡 顕微鏡
プランクトンネット

☆指導体制

- (1) 直接指導者（1名）…活動全体の指導・監視する。（導入は自然の家職員が行います）
 - (2) 補助指導者（1名）…活動を監視する。（参加者40名に対して1名）
- ※ 参加者が41名を超える場合は、40名増すごとに1名の補助指導者を配置してください。

☆指導上の留意点

- (1) 海上は天候が変わりやすいため、風力・風向・波浪に十分注意する必要があります。実施にあたっては、「海浜活動安全対策マニュアルの実施基準」に従って実施します。詳しくは自然の家職員にご確認ください。
- (2) 引率者全員がねらいとそれに応じた運営をできるように打ち合わせをしっかりとっておきましょう。担当者だけが分かっても効果はありません。
- (3) 干潮・満潮時刻を事前に確認しておきましょう。
- (4) 事前に指定された活動エリアを確認し、不用意に海には入らないことや滑りやすい場所、落水の可能性のある場所等を参加者に知らせておきましょう。
- (5) 適宜水分補給を心がけてください。
- (6) 雷の接近を感じたらすぐに避難させるとともに、無線機を使って自然の家職員に連絡してください。また、自然の家所有の雷探知機が反応し落雷の危険があるときには、直ちに無線機で引率責任者に連絡します。
- (7) クラゲ・ゴンズイ・エイ・ウニ等の危険な生物について説明し、むやみに捕まえたり直接触れたりしないように指導してください。
- (8) 注意事項ア～エを確実に伝えてください。
ア 活動中は指定されたエリア内で活動し、絶対に単独行動はしない。
イ ふざけたり、危険な行為をしたりして海に落ちないようにする。
ウ 用具類はていねいに扱う。
エ 自然の家の職員や団体引率者から指示されたことは、厳守する。

(9) 体調不良者への対応

ア 熱中症…(ア) 日陰の涼しい場所で横にし、衣類をゆるめて楽にする。

(イ) 顔面が蒼白で脈が弱いときは下半身を高くする。

(ウ) 水分を補給し、体を冷やす。

(エ) 症状が重い場合は、早急に医療機関へ搬送する。

イ 低体温症…(ア) 症状が軽い(体温が33℃以上)場合は、体の水分をよく拭き取り、毛布で暖めたり、40～42℃くらいの温水に入浴させたりして復温を図る。

(イ) 症状が重い場合(体温が32℃以下)場合は、必要に応じて心肺蘇生法を行い、早急に医療機関へ搬送する。

☆手順例

(1) ねらい 海の生物や環境に対する興味関心を高める。

(2) グループ構成 8人程度の班ごと

(3) 展開

<事前> 参加者の人数及び健康状態を確認する。活動に応じた服装に着替える。トイレ・水分補給を済ませておく。

① ライフジャケットを着用させる。

② 自然の家職員から活動範囲や道具の説明を受ける。

③ 道具(箱めがね等)を配布する。

④ 活動を開始する。

⑤ 活動を終わったら人数を確認する。

⑥ 使用した道具を片付ける。

⑦ 活動場所(海岸)を清掃する。

⑧ シャワーを浴びて更衣する。

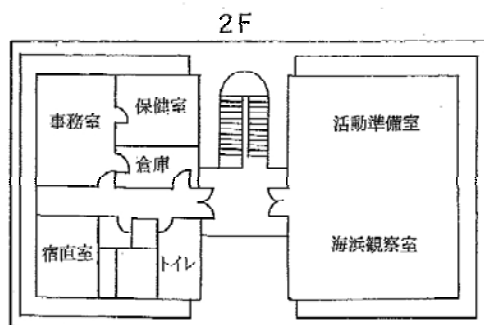
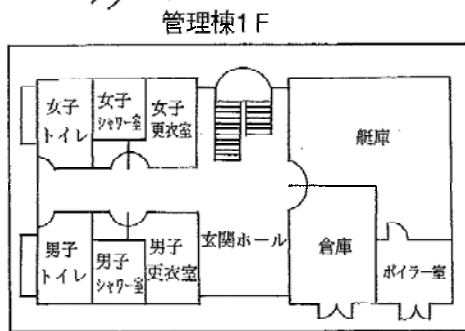
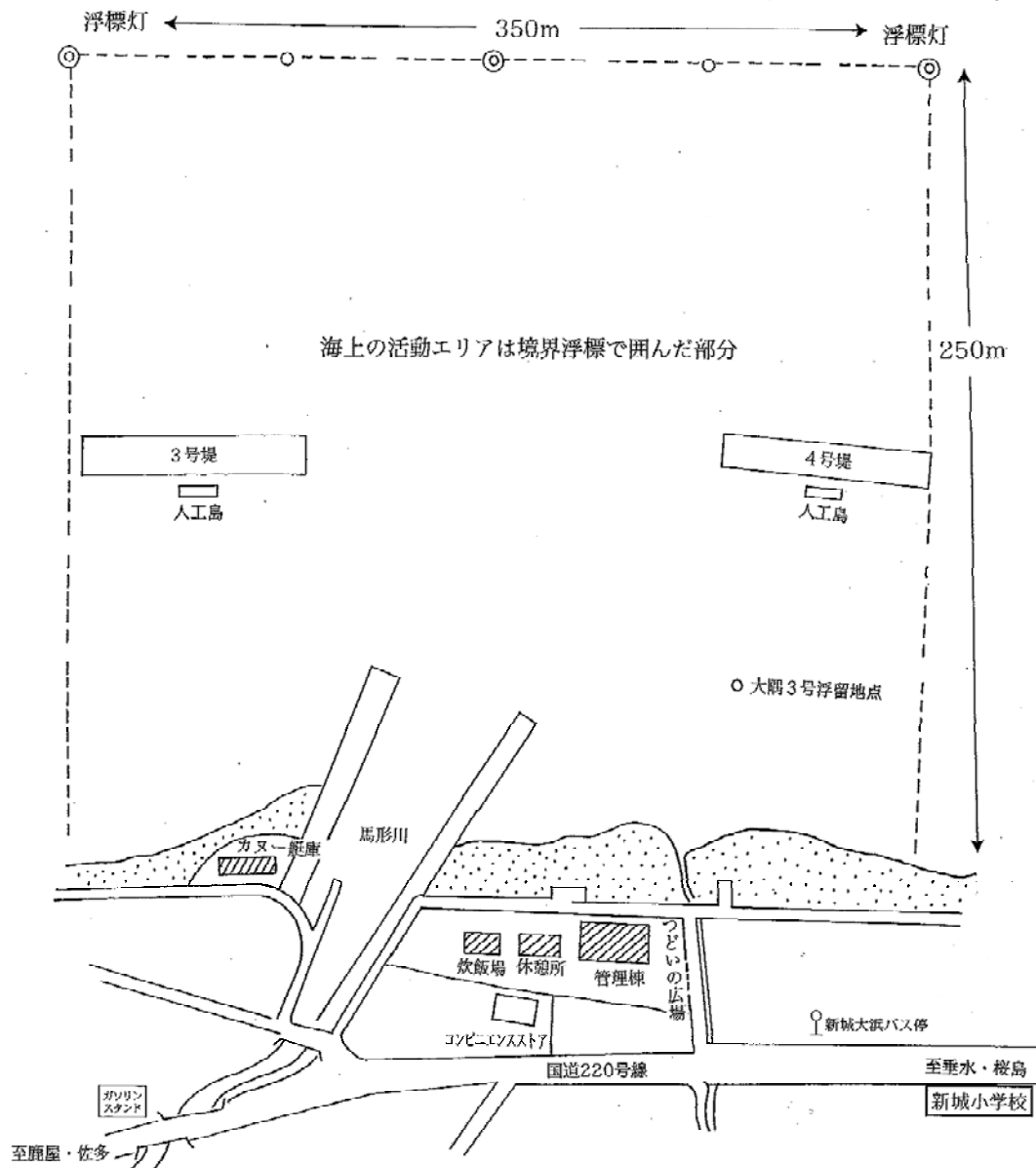
※ プランクトンネットで微生物を採取して、顕微鏡等で観察することもできます。学年に応じた展開を工夫しましょう。

(4) ふりかえり・まとめ

① 「どのような生物を見つけたか」「どんな所にいたのか」「海の環境問題」など、ねらいに応じたテーマに基づき活動との対比で考えさせる。

② 指導者は参加者の発表を受け、今回の「気づき」を、次の活動や日常生活に活かすことを促すなど、簡単にコメントを行う。評価的なコメントにならないように注意する。

【海浜活動（ゴムボート体験・いかだ体験・カヌー体験）活動エリア】



20 海のクラフト

☆活動の概要

漂流物や貝殻、海岸の砂などの自然物を利用して創作活動を行うことで、手作りの喜びや自然のあたたかさを感じ取ることができます。できあがった作品は、自然の家での思い出になり、きっと大切にすることでしょう。

団体のオリジナルクラフトや季節行事に関連したクラフトもお勧めします。

☆ねらいとして考えられるもの

自然の物を利用して創作活動をすることで、自然に対する親しみを持つ。

☆活動場所

海浜観察室（最大50名程度 活動可）

※ 天気がよければ砂浜や新城海の家でも活動できます。

☆季節

5月1日から10月31日まで

☆準備物

道具は自然の家にあります。参加者及び引率者は、材料等をご準備ください。

☆導入

自然の家職員が導入指導をいたします。活動前に打ち合わせをしてください。

☆留意点

- (1) 参加者一人一人の技量やペースが異なるので、それらに応じた指導をしましょう。
- (2) 指導者がすぐに手伝うことは控えましょう。
- (3) 道具の使い方などの安全指導をしっかりとしましょう。
- (4) 後片付けまで参加者にさせましょう。

☆手順例

- (1) 自然の家職員と打ち合わせをする。
- (2) 必要な道具を借りる。
- (3) 自然の家職員が導入指導をする。
- (4) 活動開始 ※引率者が指導する。
活動終了
- (5) 作品を互いに鑑賞する。
- (6) 後片付けをする。机・いすを並べる。
- (7) 借りた道具を返却する。

☆海のクラフト一覧

種類	対象					時間	団体準備物等
	幼児	小低	小高	中学	高校		
①サンドスケッチ（砂絵）	△	△	○	○	○	3.0	台紙（シール添付）
②サンドクラフト（砂の造形物）	○	○	○	○	○	2.0	
③漂流物クラフト	○	○	○	○	○	2.0	ボンド類 絵の具等

○適している △デザインナイフ使用のため注意が必要



①サンドスケッチ（砂絵）



②サンドクラフト（砂の造形物）

①サンドスケッチ（砂絵）			
費用	無料	活動可能人数	約50名
準備	厚紙にシール裏面をのり付けした台紙 木工用ボンド（必要に応じて）	材料	色砂（赤・青・黄・緑・黒） 着色なしの砂
作り方	<p>※ 道具（デザインナイフ）は自然の家で準備します。</p> <p>① 台紙に下絵を描く。 ② 下絵の一部をデザインナイフで切り取りシールをはがす。 ③ その上に色砂をふりかけ軽く押さえる。 ④ 余分な砂は元の場所に返す。</p> <p>① ③と④を繰り返しながら徐々に色砂を付けていく。（完成）</p> <p>※ 木工用ボンドを使用すると立体感がでるが、乾きにくい。 ※ シールを台紙に貼る作業は当日でもできるが、余分に時間が必要となる。</p>		
その他	<p>① 色砂を混ぜないように、ていねいに取り扱いましょう。 ② 道具の正しい使い方を指導し、安全面の徹底を図りましょう。 ③ 清掃と後片付けをしっかりとさせましょう。</p>		

④⑤

①


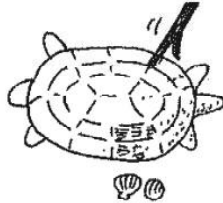






②



③



②サンドクラフト（砂の造形物）			
費用	無料	活動可能人数	制限無し
準備	活動用のくつ 帽子 日焼け止め等	材料	浜砂
作り方	<p>※ 道具（スコップ バケツ 移植ごて 等）は自然の家で準備します。</p> <p>① 自然の家職員より作り方の説明を聞く。 ② グループごとに製作する。 ア 砂を集め海水である程度固める。 イ 外形をつくる。 ウ 流木や貝で模様をつける。（完成） ③ 鑑賞会をする。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>①</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>③</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>④</p>  </div> </div>		
その他	<p>① 帽子を着用し、水分補給をこまめに行いましょう。 ② 海岸線はいろいろなものが落ちています。くつをはいて活動しましょう。 ③ 清掃と後片付けをしっかりとさせましょう。</p>		

③漂流物クラフト			
費用	無料	活動可能人数	制限無し
準備	活動用くつ 帽子 日焼け止め等 絵の具セット 針金 ポンド ニス 製作に必要とされるもの	材料	貝・流木等の漂流物
作り方	<p>※ 道具（のこぎり・ペンチ 等）は自然の家で準備します。</p> <p>① 自然の家職員より進め方の説明を聞く。 ② 海岸を散策しながら貝や流木、漂流物を集める。 ③ 絵の具等で模様を描き、組み合わせる。（完成） ④ 鑑賞会をする。</p> <p>〈例〉①石の形を生かして模様を考える。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;"> <p>②絵の具で色を塗る。</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>③ニスを塗る。</p>  </div> </div>		
その他	<p>① 帽子を着用し、水分補給をこまめに行いましょう。 ② 海岸線はいろいろなものが落ちています。くつをはいて活動しましょう。 ③ 清掃と後片付けをしっかりとさせましょう。</p>		